



2026年夏院長の独り言②④ ～被災者の皆さまへ～



令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震は真夏という極めて過酷な環境下で発生しました。停電や断水、避難所生活、車中泊などにより、いまだ多くの方が睡眠を含めた様々な普段の日常生活を送ることが難しい状況に置かれています。避難生活では、眠りと命を守るためのポイントがあります。

真夏の避難生活で眠りと命を守る10のポイント

① **眠れないのは自然な反応です**

地震直後に眠れなくなることは珍しいことではありません。焦らず、「眠れるときに眠る」ことを心がけましょう。

② **水分を我慢しないようにしましょう**

暑さや発汗により脱水や熱中症の危険があります。トイレを気にして水分を控えすぎないようにしましょう。しっかり水分補給しましょう。

③ **昼寝も上手に利用しましょう**

夜に眠れないときは、20～30分程度の昼寝でも疲労回復に役立ちます。

④ **暑さを避ける工夫をしましょう**

風通しを良くし、うちわや携帯扇風機、冷却グッズなどを活用して体温の上昇を防ぎましょう。

⑤ **車中泊では足を動かしましょう**

長時間同じ姿勢を避け、2～3時間ごとに足首を動かしたり、外へ出て歩いたりしましょう。エコノミークラス症候群の予防につながります。

⑥ **睡眠薬は自己判断で増減しないようにしましょう**

薬が不足する場合や眠れない状態が続く場合は、医療者へ相談してください。

⑦ **CPAPをご使用中の方へ**

可能な範囲で治療を継続してください。使用できない場合は、横向きで眠ることで無呼吸が軽減することがあります。

⑧ **高齢者や子どもには特に配慮しましょう**

高齢者ではせん妄や転倒、小さなお子さんでは不安や夜泣きが

起こりやすくなります。安心できる声かけや見守りを心がけましょう。

⑨ **このような症状が続くときは医療機関へ相談しましょう**

高熱、強い息苦しさ、意識がもうろうとする、強い眠気や脱水症状、何日も眠れない状態が続く場合は早めに医療機関へ相談してください。

⑩ **一人で抱え込まないようにしましょう**

不安や眠れないことを周囲の人や支援者に話してください。支え合うことも、心と身体を守る大切な力になります。

さて、7月28日地震が起きた時、我が家の猫たちは、とても怖かったようです。帰宅すると一番若い茶虎猫だけがどこにもいません。小さな鳴き声が2階の寝室から聞こえてきました。茶虎イケメンこっちゃん、ベッドの下にうすくまって鳴くだけで前脚は動かすけれど、腰が抜けたせいで後ろ脚は全然動きません。地震発生から5時間位経っていました。周りには、吐物もあります。よほど怖かったのでしょう。ベッドの下から救出して、お水と柔らかい食べ物をあげましたが、私のそばからしばらくは離れようとしませんでした。パトロール猫のハチワレハルは、いつもの食欲はなく、じっと耳を立てていました。そして、驚くべくはその日の朝まで猫風邪をひいてますます痩せこけた黒猫ベルです。なぜか、モールの一番上から、我が家を見張っており、その日から再び餌を食べ始めるようになったのです。三者三様と言いますが、まさに我が家の猫たちも三猫三様の地震体験でした。猫たち、怖かったね!でも、家を守ってくれてありがとう!

熊本の皆さま、なんとしてでも一緒に頑張りましょうね!!



おやつもらえずに怒ってるハル



叱られて隠れてるつморりのハル



池上家の守り神ベル嬢



独り言猫たち

12



社会医療法人 芳和会

くわみず病院だより

No.81

発行責任者：池上 あずさ 発行所：社会医療法人芳和会くわみず病院 〒862-0954 TEL 096-381-2248 住所：熊本市中央区神水1-14-41 <https://www.kuwamizu.jp/> SAS予約sas_ctr_ap@kuwamizu.jp

くわみず病院理念

1. 無差別・平等の医療と福祉の実現を目指します

2. 保健予防・急性期から慢性期、リハビリ、在宅医療まで人の生涯にかかわる医療と介護を提供します

3. 安心して住み続けられるまちづくりの拠点となります

CONTENTS

1 震災を乗り越え、再び地域と共に—

2・3 第43回くもと健康まつりを開催しました

4 副院長退任のご挨拶

副院長新任のご挨拶

5・6 医師紹介

7 わくわくチャレンジ病院のおしごと2026開催しました

8 住み慣れた我が家で、自分らしく動ける喜びを

9 睡眠障害内科を標榜します

ありがとう そしてさようなら くわみず病院歯科

10 原水爆禁止国民平和実行進に参加しました

新人職員紹介

11 提携医療機関紹介 牟田内科医院

12 院長の独り言



2016年4月末撮影(10年前の病院だよりにて使用)
10年前の熊本地震の際に、全国からの支援への感謝と「地域の方々と共に少しずつ歩んでいきたい」という思いを込めた写真

震災を乗り越え、再び地域と共に—

2016年の教訓を胸に、今私たちができること

事務長 藤田 信一

2026年7月28日16時27分。あの日から10年という節目に、再び熊本の地を激しい揺れが襲いました。宇城市や氷川町を中心に最大震度7を観測した今回の「令和8年熊本地震」は、県内広域に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命と当たり前にあった平穏な日常を奪い去りました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

10年前の熊本地震の際、くわみず病院は断水や備品の転倒で混乱するなか、全国の民医連から駆けつけた延べ1000人以上の仲間の支援を受け、昼夜を分かたぬ医療活動を行いました。また避難所や車中泊を余儀なくされた方々のもとを訪ね、一人ひとりの声に耳を傾けた日々は、私たちの原点です。

今回の地震では、幸いにもガスやエレベーターの一時停止等にとどまり通常診療を続けることができましたが改めてBCP(事業継続計画)と平時の訓練の大切さを痛感させられました。

発災以降、私たちくわみず病院を含む熊本県民医連では八代市や氷川町など被害が大きかった地域への支援に力を注いでいます。八代中央クリニックでは、酷暑のなか入浴もままならない被災者のためにシャワー設備を無料開放しています。また、全国の仲間と八代地域の健康友の会会員さんを訪問する地域訪問を開始しました。猛暑のなかで自宅の片付けに追われる方や、余震に怯えながら過ごす高齢者の方々を訪ね、会員の皆さんの声を聴かせていただいています。八代市社協ボランティアセンターでは、救護班としてボランティアや住民の皆さんの体調観察も担っています。

医療・介護に従事する私たち自身もまた、一人ひとりが被災者でもあります。家族や自宅を心配しながらも、現場に立ち続ける職員たちの疲労とストレスは決して小さくありません。熊本県民医連では全職員を対象とした「災害時の心の健康チェック」を行い、支える側のケアにも取り組んでいます。私たちが元気に活動し続けるからこそが、地域の皆さまへの一番の支援になると信じているからです。

「10年前より避難所の環境が変わっていない」「行政の支援が届かない」といった住民の皆さまの切実な声も届いています。災害が繰り返されるたびに、私たちの果たすべき役割の重さを痛感します。10年前の教訓を生かし、今回できたこと、また今なお残る課題をしっかりと検証し、地域とともに「災害に強いまちづくり」を歩んでいくことが重要です。私たちはこれからも、地域住民の皆さまのいのちと健康、そして尊厳を守るため、歩みを止めることはありません。「こころひとつ一歩前へ」、ともに進んでいきましょう。

1

第43回くまもと健康まつりを開催しました

～健軍商店街アーケードに広がる健康の輪～

検査科 田畑 健伸

5月17日(日)、第43回くまもと健康まつりを開催しました。当日は5月としては異例の気温30度を超える真夏日となり、厳しい暑さが心配されましたが、アーケード日陰に救われ、大きなトラブルや体調不良者も出さなく、無事に開催できました。

43回目という長い歴史を誇るこの健康まつりですが、今回も健軍商店街振興組合をはじめ地域の皆様や近隣の関係諸団体の方々など多くの方に支えられ、1,000名を超える方々にご来場いただきました。

まずは江津湖エリアにて江津湖ウォーキングからスタートしイベントの進行を司る特設ステージでは、当院の若手スタッフたちが司会進行の大役を担ってくれました。フレッシュでハツラツとした声をアーケード内に響かせながら、臨機応変でスムーズな名司会ぶりを披露し、イベント全体の雰囲気を大いに盛り上げてくれました。

ステージ企画では、当院の研修医である西守医師が

空手演武披露してくれました。日頃のスクラブ姿からは一転、凛とした道着に身を包んだ西守医師がステージに登壇すると、会場の視線が一気に集まりました。空気が張り詰めるような緊張感の中、迫力満点の気迫あふれる演武が披露されると、観客から大きな拍手が送られました。他にもDo challenge club 山下様、Mダンスカンパニー様、秋津小ウインドオーケストラ様にもまつりに彩を与えてくれました。また、イベントの終盤に行われたお楽しみ抽選会也大いに盛り上がり、健軍商店街より準備した景品が当選するたびに会場からは大きな歓声と笑顔が溢れ、会場が一体となる楽しいひとときを共有することができました。

今回の健康まつりでも、当院のスタッフによる健康相談・測定コーナーのブースを設置いたしました。

測定コーナーでは、血糖測定や血圧測定をはじめ、血管年齢測定、骨密度測定、さらには日常の運動機能を確認する体力測定などが行われました。一時は順番待ち



今年も健軍商店街の歩行者天国をお借りしてまつりを開催しました。

の列ができましたが、来場者が真剣な表情で結果を受け取り、一喜一憂されている姿が印象的でした。

また、相談コーナーには、スタッフがそれぞれの専門性を活かして、住民の皆様の疑問や不安に寄り添いました。内科相談をはじめ、睡眠相談、栄養相談、お薬相談、心理相談、介護相談などを実施。さらに、アルコールパッチテストや脳トレなど手軽にチェックできるコーナーも設置しました。普段の病院ではなかなかゆっくり話にくいことも、アットホームな商店街ならではの雰囲気できれいに相談できたのではないかと思います。

健康づくりだけでなく、お祭りの楽しさをさらに彩ってくれたのが、バザーや子どもの広場コーナーです。今回は、熊本県民主医療機関連合会(県連)をはじめ、「八王寺の杜」、「たくまの里」、そして「ファルマ」の各事業所から出店をいただきました。それぞれ美味しい食べ物や千本釣りなどのミニゲームなど盛り上げて



今年の司会は入職1年目の山田社会福祉士と3年目の山口管理栄養士が担当。



財津副院長も内科相談を担当しています。

くれました。

さらに、今回はご家族連れの方々にも安心して楽しんでいただけるよう、「子どもの広場」を設置いたしました。ここでは、「ぼっぼ保育園」の保育士さんたちに子どもたちの目線に立った温かいサポートと楽しい遊びの空間を提供していただきました。また子どもの広場コーナーには、検査技師の後藤さんがマジシャンとして登場。お得意の手品を子どもたちに披露してくれました。

くまもと健康まつりを通して、病院と地域とのつながりを深め、地域に根差した取り組みを継続していく事の大切さも改めて実感いたしました。様々な方のご支援・ご協力、大変感謝しております。

このまつりが来場された方々に自分の体に興味を持たれ、日頃の健康づくりのきっかけとなれば幸いです。また来年もより多くの方が来場し、笑顔で健康になって帰ってもらえるまつりにできればと思います。



健康チェックコーナーには長蛇の列ができました。



研修医の西守先生の空手演武、まばたき厳禁の迫力でした。

副院長退任のご挨拶

水俣協立病院 副院長 あか ぎ 赤木 まさ ひこ 正彦

1997年に医師となり、今年で29年目。そのキャリアの大半である22年間を、私はここ「くわみず病院」の仲間、そして地域の皆様とともに歩んできました。

長い歳月、患者さんに寄り添い、ともに年齢を重ねてまいりました。その歩みの中で、病気が悪化したときだけ診る「点」の診療から、病気を「線」として診る医療へ、そして患者さんの人生を「面」として捉える医療へと視野を広げることができました。これは私にとって、かけがえのない財産です。

2026年4月、私は水俣協立病院へと新たな一步を踏み出します。くわみず病院で培った経験を胸に、新天地でも目の前の命に真摯に向き合い続けます。長い間、本当にありがとうございました。



副院長新任のご挨拶

副院長 さい つ 財津 しょう 翔

このたび副院長に就任しました財津です。

これまで私は現場の一医師として患者さんに向き合い、やりがいを感じながら働けることを何よりの幸せだと思ってきました。しかし歳を取るにつれて、その幸せの中身が少し変わってきたように感じています。自分自身の仕事や家庭の充実だけでなく、この病院が元気で、職員の皆さんが前向きに安心して働けることも、自分にとって大切な願いになりました。

医療を取り巻く情勢は決して楽ではありません。経営のこと、職員の健康や働きがい、そして地域の皆さんに必要とされる病院であり続けること。どれも避けて通れない課題です。副院長になったからといって、急に特別な力が備わるわけではありませんが、皆さんのお力を借りながら少しでも病院が良い方向へ進めるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



医師紹介

医師 みや もと 宮本 ゆう へい 悠平

はじめまして。この度くわみず病院に入職しました宮本と申します。以前は関東の病院で働いてました。熊本に来てまず驚いたのは、水道水が美味しいことでした。おかげさまで、白湯を作って飲むのが日課になっています。

ただひとつ気がかりなのが、私は納豆も毎日食べているのですが、どうやら九州の納豆のタレは関東と比べて少し甘くなっているようで、まだなかなか慣れていません。

このような新参者ですが、入院や訪問診療など、地域に貢献できるような医療を提供したいと思います。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



医師紹介

医師 たみ なが 民永 けん と 健人

2026年4月よりくわみず病院にて勤務しております医師5年目の民永と申します。出身は西原村で学生時代は自然豊かな環境でのびのびと育ちました。高校は熊本県立第二高校出身でその後熊本大学に進み医学を学びました。大学卒業後は沖縄県那覇市にある沖縄協同病院にて二年間初期研修を行い、その後福岡県博多区にある千鳥橋病院で2年間の内科専門研修を経て現在に至ります。いずれの病院も規模は違えど、地域に根差した病院で地域住民とのつながりを大事にしながら医療を提供していました。今回このように自分が生まれ育った熊本で地元の方々のために働けることを大変うれしく思います。趣味はおいしいものを食べることで体を動かすことで、最近でいうと休みの日の昼はカレー屋さんを巡ることが多いです。運動は普段フットサル、ランニング、バドミントンをしています。年に1回のフルマラソン出場を目標に練習していて、今年は12月にある那覇マラソンに参加する予定です。

まだまだ未熟者ではありますが、患者様に安心していただける医師を目指し、日々研鑽を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



医師紹介

医師 すき さき しゅん や
鋤先 駿也

本年度勤務することになりました、医師4年目の鋤先駿也です。初期研修のときにもお世話になりました。

昨年は熊本大学病院の脳神経内科で勤務し、様々な神経疾患の診療の機会に恵まれました。今年は内科全般をみつつ、院内の脳神経内科に関する相談を受けられる立場になればと考えています。訪問診療や内科の一般外来をしつつ病棟も回るのはやや不慣れではありますが、自分なりのルーティンを早く築いていきたいと思います。また、少しでも丁寧に診療にあたることを大事にしようと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



クッキーと一緒に、「プリン」も大好きです。

医師紹介

医師 にし もり まさ たか
西守 賢恭

令和8年度、鹿児島生協病院に初期研修医として入職しました西守賢恭(まさたか)と申します。4月から6月の間、くわみず病院に内科導入研修のためお世話になっております。熊本生まれ埼玉育ちです。出身高校は埼玉県立浦和高等学校という男子高で、文字通り血と汗と涙に滲んだむさくしい青春を送りました。その後浪人を経て熊本大学に入学してからは空手部に所属し、どちらかというと勉強よりも部活に勤しむ学生生活を過ごしました。今でも空手は続けておりまして、熊本市内の道場で自分自身も稽古をしながら、子供たちの指導や監督などを行っています。趣味は仮面ライダーやスターウォーズなどの特撮映画、旧車、パスタ作りなどです。

一昨年は八王寺の杜の看護小規模多機能型居宅介護事業所で、昨年はくすのきクリニックの通所リハビリでアルバイトをしておりました。そうした経験も糧に今後、医師として成長していけるよう研修に励んで参ります。令和9年度の年度末にはくわみず病院に戻ってくる予定ですのでその折にはまたよろしくお願いいたします。



映画「ベスト・キッド」より鶴の構え

「わくわくチャレンジ 病院のおしごと2026」を開催しました！

検査科 杉本 有衣

2026年7月18日(土)、『わくわくチャレンジ病院のおしごと2026』を開催しました。昨年冬に初めての試みとして行ったイベントですが、有難いことに好評をいただき、第2回を開催することができました。今回もたくさんの子どもたちが元気いっぱいに参加してくれました。

BLS体験やセラピストによるストレッチ体験など、第1回でも好評だった体験のほかに、内視鏡体験、はたらく細胞クイズと今回あらたに2つの「おしごと」体験を加え、さらに、保護者の方向けの特別コーナーも新設しました。

参加した子どもたちからは、「楽しかった！」「もっと病院のことを知りたい！」といった嬉しい感想が数多く寄せられ、「くわみず病院をより身近に感じられた」との声も多くいただくことができました。

当院はこれからも、地域に開かれた病院として子どもたちの夢や地域の健康を支える様々な取り組みを続けていきます。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました



BLS(一次救命)に挑戦する子どもたち



病院の制服を着てなりきり体験



内視鏡を使ってお宝さがし



食べ物のカロリー当てクイズに挑戦

住み慣れた我が家で、自分らしく動ける喜びを

訪問リハビリテーション 堤 渚・塚本 祐子・高峰 佑貴

「退院したけれど、家での生活に不安がある」「外出が難しく、リハビリを諦めている」-そんな方々の思いを支えるのが『訪問リハビリ』です。専門スタッフがご自宅へ直接伺い、実際の生活環境に合わせてリハビリを行います。

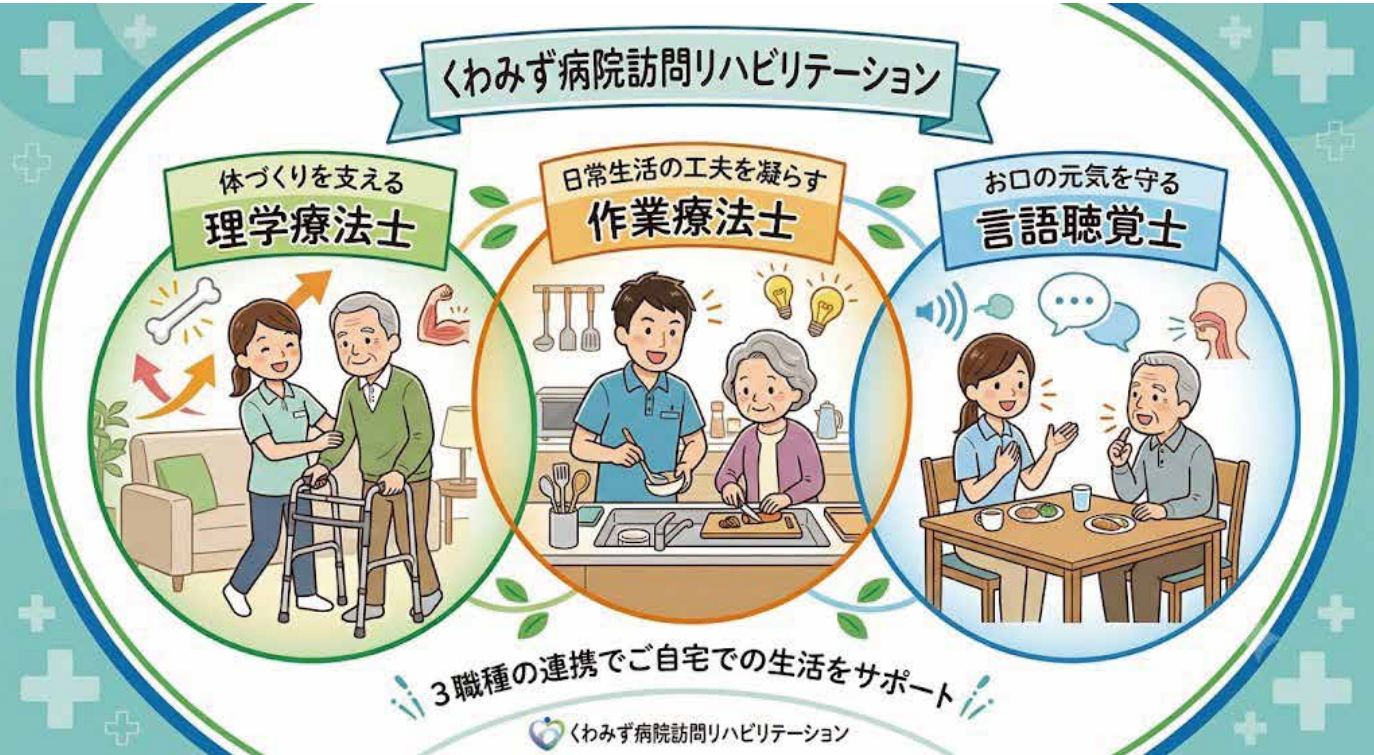
当院では、それぞれの専門性を活かし、日々の困りごとにチームで寄り添います。

住み慣れた我が家だからこそ、リラックスして「でき

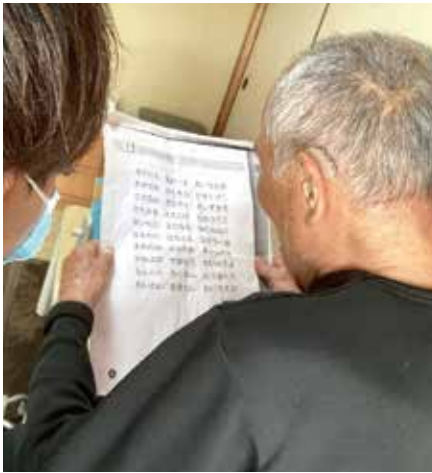
た!」の実感を味わえるのが最大の魅力です。

「うちでも利用できる?」「まずは話を聞いてみたい」と少しでも興味のある方は、まずは担当のケアマネジャーや主治医にご相談いただくか、当事業所(くわみず病院通所リハビリテーション/電話:096-381-8738)までお気軽にお問合せください。

笑顔で過ごせる明日への一歩を、私たちがサポートします。



下肢運動の様子



音読の発声訓練の様子



屋外訓練の様子

「睡眠障害内科」を標榜します

検査科科長 小楠 里美

2002年にくわみず病院で睡眠外来を開始してから、24年が経過しました。

現在、当院でCPAP治療を受けられている患者さんは約1,150名にのぼり、睡眠時無呼吸症候群をはじめ、過眠症や不眠症などさまざまな睡眠障害の診療を行っています。

「日中の強い眠気がある」「眠れない」「いびきや無呼吸を指摘される」「寝言や寝ぼけがきになる」など、睡眠に関する症状は様々です。しかし、「どの診療科を受診したらよいかわからない」と迷われる方も少なくありません。

このたび当院では、睡眠に関するさまざまな症状に

対してご相談いただけるように、2026年8月より、新たに「睡眠障害内科」を標榜致しました。

現在は複数名の睡眠学会総合専門医を中心に診療を行っております。当院の特徴としては、県下唯一の睡眠学会認定施設の睡眠センターを有しておりまして、専門の睡眠検査技師や看護師もチームで診療にあたっております。加えて大変珍しい中高校生を対象としたリズム障害外来もあります。

初診は現在2～3か月ほどお待ちいただいております。ご不便をおかけしておりますが、睡眠は健康の土台です。『眠り』でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。



睡眠医療センター内部



睡眠医療センター入口



PSG検査室

ありがとう そしてさようなら くわみず病院歯科

～地域みなさまに支えられて～

歯科 久保田 千穂

2026年5月31日をもちまして、くわみず病院歯科は診療を終了いたしました。

開設以来、地域の皆さまの歯と口の健康を守るため、外来診療をはじめ、病棟患者さまへの歯科医療、訪問診療、口腔ケア活動などに取り組んでまいりました。子どもから高齢者まで、多くの患者さまとの出会いに恵まれ、地域医療の一員として歩んできたことができました。

診療室では、「よく噛めるようになった」「食事がおいしくなった」「安心して治療を受けられた」など、たくさんの温かい言葉をいただきました。また、医科や看護、リハビリ、介護スタッフとの連携を通じて、患者さまの暮らしを支える医療を実践してきました。

振り返れば、多くの患者さまやご家族、健康友の会の皆さま、地域の医療・介護関係者の皆さまに支えられながら歩んできた年月でした。皆さまからいただいた信頼と励ましは、私たちにとって何よりの財産です。

なお、通院されていた患者さま、菊陽病院でも歯科受診は可能です。菊陽病院にお気軽にお問い合わせください。

長年にわたり、くわみず病院歯科を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

原水爆禁止国民平和進行に参加しました

総務課 上村 東洋

1958年から続く「平和進行」は、平和と核兵器廃絶を願って全国で開催され、これまでに延べ100万人が参加してきた歴史ある平和活動です。今年の6月30日には熊本市内でも4つのコースに分かれて進行が行われ、最終目的地である辛島公園には150人が集結しました。

当院のメンバーも、熊本県庁正門から辛島公園までの5kmの道のりを、横断幕を掲げて市民の皆様へ平和の尊さを訴えながら歩きました。平和を求める同じ思いを持つ仲間と共に進行したことで、「一人ではない」という強い連帯感と、自ら行動を起こす意義を改めて実感することができました。

平和は決して当たり前のものではありません。私た

ち一人ひとりがそのことを深く認識し、「平和のために何ができるか」を考え、行動し、次の若い世代へと引き継いでいくことが何よりも大切だと考えています。

当院ではこの進行への参加だけでなく、毎年8月に広島・長崎で開催される世界大会への職員派遣、平和祈念展(原爆写真展)の開催、核兵器禁止条約への参加を求める署名活動など、日常的に平和の尊さを発信し続けています。

「平和があってこそ医療と介護」です。これからも患者様や地域の皆様と共に、安心して暮らせる平和な地域づくりに努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



新入職員紹介



やまだ けんたろう
地域医療部 山田 健太郎

社会福祉の立場から患者様やご家族に寄り添い、日々学びながら精一杯努めます。よろしくお願いします。



てしま ゆうと
リハビリテーション科 手嶋 悠登

いち早く先輩方やくわみず病院のお役に立てるよう頑張ります。至らない点が多々あると思いますがよろしくお願いします。



なか おさき
3階病棟 中尾 咲輝

看護師として入職しました。まだ不慣れなことも多いですが、1日でも早く成長できるよう日々学んでいきたいと思ひます。よろしくお願いします。

連携医療機関紹介

牟田内科医院



上益城郡御船町(人口約17,300人・高齢化率34.8%)にある内科・消化器内科を標榜している無床診療所です。この地で開業して70年超になります。時代の流れに応じて診療形態が変化していますが、現在は消化器系に限らず内科一般に広く検査・診療を行い、また訪問診療・在宅医療にも力を注いでいます。とは言いましても無床診療所ですので、患者さんにより安心して受診して頂くには病診連携が生命線といっても過言ではありません。くわみず病院さんには日頃より急な入院依頼に対しても快く対応頂き心より感謝申し上げます。また連携の会では「くわむたバンド」として趣味の音楽でもお世話になっています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

大切にしていること

1、どんな時でも患者さんを前向きに
2、迅速かつ丁寧で心の通じる病診連携
3、来院して良かったと思える環境作り

院長
牟田 龍史
(H7年熊本大学卒)



【診療内容】 内科一般・消化器内科・在宅診療・GF、CF検査、各超音波検査他・健診など

【診療時間】 月・火・水・金の9:00～12:30と13:30～18:00 木・土の9:00～12:30(午後休診)
休診日:日、祝祭日、そのほか当院の指定日

【アクセス】
●車
○熊本市内中心部より約30分
●公共交通機関
○熊本バス 桜町バスターミナル発 健軍・県庁経由 → 御船・銀行前、もしくは城山公園前下車いずれも徒歩1分
○熊本バス 桜町バスターミナル発 イオン熊本・田迎経由
○九州産交バス 木山営業所発御船行き 御船橋下車すると目の前

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町御船935番地 TEL.096-282-0216 FAX.096-282-2696

ホーム
ページ

